

日米交流の機会を通して  
フィンドレー大学奨学生レポート・機械工学系（４月）

３月は季節外れな暑さでしたが、今は肌寒い天気が続いています。春を感じるのは少し先になりそうです。今月はアメリカと日本の交流する機会が多く、日米の関係を再確認する月でした。埼玉親善大使として、これらを中心にお伝えしていきたいと思います。

**震災への再考イベント：**

１７日の夜、東日本大震災のイベントをフィンドレー大学にて行いました。日本人学生の有志により企画され、災害から１年経った今、改めて日本に何が起こったのかを伝えるものです。日本人学生は実際の自分の体験を、アメリカ人学生は大学・地域による支援活動をそれぞれ語りました。また、オハイオ州立大学教授で学生と共にボランティアとして日本を訪れたクリスさんや、デトロイト総領事館の松田総領事、現地の日本企業会「フレンズ・オブ・フィンドレー」の小林会長などを招き入れ、それぞれ日本での体験や現在の日本を語って頂きました。多くの視点から、この震災という現象を伝える会になったと思います。会場には、一般の方を中心に多くの来場者が訪れました。会場の誰もが、改めて見る震災の被害と当時の状況に関心を持っているようでした。

私も日本人学生の１人として参加し、鉄道の停止と計画停電のこと、それによりいつもと違う生活を強いる事になった家族の様子を伝えました。また、ほかの学生からは北海道から福井、そしてフィンドレーなど様々な地域の様子を聞くことができました。それらの地域は震源から離れているせいか、あまり報道で取り上げられないため、とても新鮮に感じる事ができました。日本人にとってもこれらの話は当時、日本全体で何が起こっていたのかを改めて俯瞰できるものであったと思います。

## International Night :



日本ブース（左）とパフォーマンス（右）

フィンドレー大学の留学生にとって、最も大きなイベントがこの日であるように思います。4月20日、各国の留学生は各々のブースを構え、自国の文化を紹介します。フィンドレー大学には約400人の留学生がいるため、規模も大きく、非常に盛況した場となりました。

日本のブースでは、輪投げ、剣玉と行った伝統の遊びを体験させたり、訪れた人の名前を日本語で書いてあげ、それをプレゼントしたりしました。近くの小学校から来た子供は、これらの遊びにとっても興味を持ってくれたようで嬉しかったです。また、焼き鳥や肉じゃがなどの日本料理を振る舞いましたが、中でもお寿司は人気ですぐになくなってしまいました。

このイベントの最後には、各国のグループがパフォーマンスを行います。韓国のように一人一人が空手の演技をする国もあれば、サウジアラビアのようにダンスを観客と一緒にやって行う国もあり、どの国も自国の文化が表れていて、私を含め誰もがその多様さに引き込まれました。私達、日本のグループは、ラジオ体操やソーラン節をつなげダンスのメドレーとして行いました。このダンスには、日本語専攻のアメリカ人学生も参加し非常に楽しめた夜となりました。

## 桜の植樹式：



式典の様子

今年、フィンドレー市は設立200周年を迎えます。また、日本からワシントンD.C.に親善の印として桜が寄贈されてから今年で100年目となりました。この2つの節目に因み、日本とアメリカの友好関係を記念した植樹式が4月21日、フィンドレー市内の公園で執り行われました。

式には、震災のイベントでもお会いした松田総領事、フレンズ・オブ・フィンドレーの小林会長、フィンドレー市長の他、大学関係者やフィンドレー市民が出席しました。松田総領事は市長や子供と一緒に、桜の木を植え、交流を図りました。小林会長は「フィンドレー市は第2の故郷であり、共に良きコミュニティを作っていこう」とメッセージを送りました。フィンドレー市民として共存し生活する日本人を感じさせ、またフィンドレーと日本のつながりの強さを伺わせる言葉でした。このような式典を開く事からも、フィンドレー市の日本人に対する扱いはとても強いものだと感じます。私自身、NBOや学校、教会などフィンドレー市の方々からは多くの助けをもらい、日々生活しています。将来においてもこの素晴らしい関係を保ち、ともに支え合っていく事を願わずにいられません。

Easter egg :



色付けした卵とお菓子達

アメリカでは、イースター（復活祭）と呼ばれるキリストの復活を家族みんなで祝う日があり、学校や会社は祝日のため休みとなります。近くのスーパーマーケットでは、イースターに因んだセールが行われていて、年に一度の行事を盛り上げているようでした。私はこの日、友達と一緒に卵に色づけしてイースターエッグを作ったり、兎の形をしたお菓子を食べたりしました。この卵は生命の復活を、兎は卵を運ぶシンボルであるそうです。アメリカの文化に触れさせてくれた友達に、本当に感謝しています。